

# グローバル社会における理学療法士の活躍に資する事例紹介

公益社団法人大阪府理学療法士会 職能局

## 「はじめに」

大阪では訪日外国人や大阪で暮らす外国人の増加に伴い、普段の業務でも対象が外国人のケースも見受けることが多くなってきている。その為大阪府理学療法士会（以下 府士会）では、将来的にグローバル化する社会に対応できる理学療法士を育成する目的も含めて、2つの事業バリアフリー展と大阪国際車いすテニストーナメントサポート事業の中で国際交流の場を設けている

バリアフリー展は、外国人来場者に対し、理学療法相談コーナーやセミナーでの介護技術講習を通じて、会員が外国人との交流経験を培う場としている。また、日本の理学療法士が外国人に求められていること、日本の介護技術の外国への啓発方法を考えるための事業として位置づけている。

大阪国際車いすテニストーナメントサポートは、障がい者スポーツサポートの理解に加えて、外国人選手特有のサポートについての経験を得ることで、今後国際的な障がい者スポーツサポートが行える会員の育成に努めている。詳細な事業内容について以下に説明を記載する。

## バリアフリー展の参加に関する事業における、

### 外国籍の来場者への対応について

#### 活動概要

バリアフリー展（高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展 主催：大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ、共催：大阪府地域福祉推進財団）は毎年大阪府のインテックス大阪で3日間に渡り開催され、誰もが安心して暮らせる豊かな社会の実現、また介助者の負担軽減を目指し最新の製品・サービスが一堂に集う国内最大級の福祉機器展示会である。府士会では来場者向けのブース出展とセミナーを開催し、理学療法の啓発を行っている。ブースではリハビリテーション相談の一環として介護技術相談・指導を行っているが、外国籍の人々による相談も多い。現在わが国では医療・福祉分野で働く外国籍の人々も多く、そのような人に対して日本の理学療法の啓発や知識・技術の伝達を行うことが国際的な活動として今後の府士会でも必要であると考えている。加えて府士会員が外国人との関りを持つことによって、自施設では経験する機会の少ない国際経験を積む

ことが出来ることも府士会事業としてのメリットであると考えている。

また過去には以下のような依頼を海外から受けている。

- ベトナムでのリハビリテーション免許は看護師が一定の講習を受けることで取得ができることになっている。このための学校をベトナム国内で開設するために協力して欲しい（ベトナム）
- 日本の理学療法士と共同で福祉用具の作成をしたいので理学療法士を紹介して欲しい（韓国、台湾）
- 中国において介護技術講習会を認定制度にして講習会を開催させて欲しい（中国）

## 活動開始の経緯

府民に対する理学療法の啓発方法を模索していたところ、会員を通じてバリアフリー展事務局よりセミナー開催の依頼を受けた。2010年はセミナーのみを開催したが、予想を超える集客があったため翌年からはバリアフリー展事務局の提案でブース出展も行うこととなった。2017年ごろからは海外からの来場者も増えており、国際的な活動も本事業の内容に含まれるようになった。

## メンバー概要

組織体制としては、府士会の社会局（広報部、医療介護保険部、調査資料部、開始編集部、福利厚生部）として事業を行うこととなり、事業開始当初の社会局長1名、社会局担当理事1名、各部より2名ずつの合計12名の人員をコアメンバーとして配置した。うち1名は海外における理学療法講習会の講師経験を有していた。コアメンバーの理学療法士としての経験年数は10年未満が3名、10年以上が1名、20年以上が2名、30年以上が1名であった。

現在は公益事業として府士会の事業計画に沿って活動を行っている。継続実施することでのノウハウの構築により、コアメンバーとしての人員は減少しており、現在のメンバーは担当理事2名、公益事業部部長1名、部員1名となっている。

## 活動開始時に必要と感じた情報

バリアフリー展への来場者に外国籍の来場者が少なからずいることが事前に確認できていれば、国際活動経験を有する会員をより多く配置するなどの事前準備ができたと考える。今後は運営スタッフの公募に際して、国際経験の有無なども確認する必要があるだろう。また、海外への理学療法士の派遣となると府士会での対応が難しいため事前に日本理学療法士協会（以下 協会）との連携を取り、相談先の情報共有などを行うことが望ましい。

## 活動実績

### ■活動経過

コロナ感染症拡大前は海外からの来場者、外国籍の施設職員などの来場が年々増加しており、海外からのブース相談者やセミナー参加者が増えており、多岐にわたる相談・依頼内容が持ち込まれるようになっていた。

開催4ヵ月前よりブース内容や、セミナー講師の選定を開始している。ブースは公益事業として出展しているため、府民対象のリハビリテーション相談や理学療法の啓発としている。セミナー講師は、府士会の事業として大阪府域の各地で開催する介護技術講習会の講師より選定している。開催2ヵ月前より会員に対して当日運営スタッフの公募を行っている。1ヵ月前には運営スタッフに対してブース・セミナーの企画内容の説明および当日の運営マニュアルの事前説明会を開催している。

### ■実績

・2017年 来場者数：91,356名

(海外1.1% アラブ首長国連邦、アメリカ、イタリア、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、デンマーク、ベトナム、マレーシア)

ブース テーマ：「リハビリテーション相談コーナー」

相談件数：125件（日本語の相談件数を含む）

セミナー テーマ：「移乗動作の介護方法～重症度の違いによる介護方法と福祉機器の選択～」

参加者：274名（会員29名、関連医療職117名、教諭2名、その他126名）

・2018年 来場者数：80,410名

(海外1.4% 韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、フィリピン、マレーシア)

ブース テーマ：「リハビリテーション相談コーナー」

相談件数：175件（日本語の相談件数を含む）

セミナー テーマ：「目からのウロコの介護技術～安全・安楽な移動・移乗の介護方法～」

参加者：254名（詳細不明）

・2019年 来場者数：88,512名

(海外1.8% イスラエル、オーストラリア、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、ドイツ、ベトナム、フィリピン、マレーシア)

ブース テーマ：「リハビリテーション相談コーナー」

相談件数：141件（日本語の相談件数を含む）

セミナー テーマ：「介助者のお身体にも配慮した介護技術講習会」

参加者：110名（詳細不明）

・2020年

開催中止

・2021年 来場者数：11,406名（海外なし）

ブース テーマ：「リハビリテーション相談コーナー」

公募スタッフ：7名

相談件数：24件（日本語の相談件数を含む）

セミナー テーマ：「介護者の身体への負担軽減も考慮した介護技術講習会」

参加者：32名（詳細不明）

・2022年 来場者数：24,327名（海外なし）

ブース テーマ：「リハビリテーション相談コーナー」

公募スタッフ：4名

相談件数：100件（日本語の相談件数を含む）

セミナー テーマ：「介護技術講習会～お互いが楽な介護を目指して～」

参加者：254名（詳細不明）



写真1 ブースでの対応の様子



写真2 セミナーの様子

## 都道府県士会会員のメリット・デメリット

### ■本活動に参加することによる国際活動としてのメリット

- ・外国籍の人とのコミュニケーションを経験できる。
- ・今後国際活動に参加していくためのきっかけとなる。
- ・国際活動に必要な語学習得のためのモチベーションとなる。

### ■その他のメリット

- ・普段の職場では経験できない相談業務を行うことができる。
- ・時間の制限を受けることなく対象者の相談に応じることができる。
- ・他にブース出展している福祉機器などを見学することができる。
- ・多職種の人のリハビリテーションに対する考え方を聞くことができる。
- ・他施設の理学療法士と出会うことができる。
- ・一般の来場者に介護技術の伝達をすることで知識の整理ができる。

- ・活動に対する報酬を得ることができる。
- 本活動に参加することによるデメリット
  - ・本業での休暇を取得する必要がある。

## 今後の方向性

本事業は、理学療法により府民の医療、福祉、介護及び健康保持に寄与する事業として継続していく予定である。人員については公益事業部と会員への公募によって確保できおり、国際的な活動経験のある会員を優先的に配置するようにしている。ブースでは幅広い内容の相談に対応できるように、経験を積んだ理学療法士の配置が必要と考える。セミナーでは講習内容の水準を担保するための講師選定が重要となっている。ここ数年はコロナ禍の影響で海外からの来場者がいない状況であるが、今後は以前のように海外からの来場者が参加するようになった場合に、外国籍の来場者をターゲットにしたブース内容の充実なども今後の検討課題である。また、海外への講師派遣や提携依頼など府士会だけで対応困難な事例に対しての窓口など、協会との連携を図る必要があると考える。

より多くの会員が国際的な活動に興味を持ち、事業に参加してもらえるような展開をおこなっていききたい。

両事業共に新型コロナウイルス感染症の影響で外国人参加者が減少しているが、今後グローバル化が加速し、多くの外国人が訪日や生活されることが予測される。府士会では、より多くの会員がこれらの国際事業に興味を持ち、この2事業に参加してもらえるように展開していきたい。そのためには、介護技術講習会テキストの外国語バージョンの作成や障がい者スポーツサポートでの外国人選手への対応講習会などを開催していくことも検討していく必要があると考える。

## 財源と財政状況

本事業は、府士会の公益事業として予算計上されている。2022年度はバリアフリー展の参加に関する事業全体として479,600円の予算を計上しており、府士会会員のグローバル化に資する事業としての予算も含んでいる。内訳は会議費44,600円、ブースに設置する備品の賃借料60,000円、やスタッフユニホームや筆記具などの消耗品費120,000円、使用する物品の発送費40,000円、スタッフ・セミナー講師の旅費交通費52,000円、セミナーでの配布資料・テキストや介助方法や府士会PRなどブースに掲示するパネルなどの印刷製本費100,000円、支払手数料3,000円、講師・スタッフの昼食代などの雑費40,000円、感染対策品などの備品購入費40,000円となっている。

# 大阪国際車いすテニストーナメント（OSAKA OPEN）サポート事業

## 活動概要

大阪国際車いすテニストーナメント（OSAKA OPEN）は大阪車いすテニス協会主催で開催されている車いすテニスの国際大会であり、2001年から行われている。参加選手70～150名の規模であり、多数のボランティアが参加されている。現在はITC 靱テニスセンターにて計4日間にわたり実施されている。

本大会は国際テニス連盟（International Tennis Federation：ITF）公認の国際大会である。ITF公認の国際大会は賞金総額によって、「Grand Slams」「ITF Super Series」「ITF 1 Series」「ITF 2 Series」「ITF 3 Series」「ITF Futures Series」などとクラスが設定されている。OSAKA OPENは、2010年から「ITF 3 Series」として開催されていたが、現在はクラスが下がり、「ITF Futures」となっている。オーストラリア・韓国・中国・台湾・マレーシア・チリなどから選手が参加している実績がある。「ITF 3 Series」クラスであった2010年は10名、2011年は14名の海外選手が大会に参加していた。「ITF Futures」となった2012年からは海外選手は減少し、毎年2～4名の大会参加であり、2022年度はコロナ禍ということもあり、海外選手はいなかった。

本大会のサポート事業を府士会は2010年から実施している。大会期間の4日間、会場内の一部としてサポートブースを設置し、府士会の会員がサポートを行っている。主な活動内容としては、車いすテニス選手のケア（徒手療法）が中心で、物理療法の実施、アイシング（氷の提供）、熱中症への対応、テーピング、トーナメント中のメディカルタイムアウトへの対応を行っている。物理療法機器は物理療法機器メーカー2社の協力をいただき、機器を準備し実施している。海外選手が参加されている年の大会では、海外選手のブース利用は毎年1～3名、3～7件であり、徒手によるコンディショニング対応が多く実施されている。

本事業に参加する理学療法士会員に対して、大会前に事前講習会を行い、車いすテニスの競技特性、サポート技術の向上を図っている。講習会は1日で開催し、経験豊富な講師からの講義及び実技練習（テーピング、徒手療法）、物理療法メーカーの方からの講義及び実技を実施している。本大会は車いすテニストーナメントの中で比較的グレードが高い位置づけでスタートされており、本事業でサポートしている選手は海外の大会に出場されることもある。そのため、本事業のサポート内容は海外での活動の基礎になる部分であり、例えばパラリンピック等の国際大会に帯同できるサポートメンバー育成を図る位置づけともなる。したがって、本講習会に参加した理学療法士及び府士会の担当部員がテニストーナメントサポートを実施するようにしている。この事前講習会に海外選手対応のための語学などの研修は含まれていないが、当日のサポートメンバーは、英語が話せるスタッフや海外でのトレーナー経験があるスタッフを配置して、海外選手への対応の体制を組んでいる。



図1：サポートブースの様子（左：コロナ禍前、右：コロナ禍）

## 活動開始の経緯

活動が開始されるきっかけとなったことは、府士会会員が勤務している身体障がい者センターにて、車いすテニス大会運営に関係しているスタッフが患者として理学療法を受けていたことから始まった。2010年に OSAKA OPEN の大会グレードが ITF3 に格上げされたタイミングで、コンデショニングルームの設置義務があり、大会を運営されている大阪車いすテニス協会会長（大前氏）から、当時の理事の口添えもあり、府士会に依頼をし、サポートが開始となった。

サポート体制を構築する過程として、府士会の役員から、当時の担当部局（障害者保健福祉部）にサポート事業として依頼された。そこで、活動に関わる組織体制やメンバーの収集方法を検討し、障害者保健福祉部の部員でサポート体制を構築し始めた。サポート体制構築に関しては、主催者である大阪車いすテニス協会との打ち合わせを重ねた。サポートメンバーに関しては、府士会員に対して、府士会ニュース案内を掲載してサポートメンバーを公募したり、興味がありそうな障害者保健福祉部部員の知り合いに声をかけたりして、参加メンバーを募った。サポート体制や必要物品、事前に習得しておくべきサポート技術について、準備に難渋したため、既に他の国際車いすテニス大会のフィジオサポート事業を開始していた他県士会（広島県士会、兵庫県士会）のサポート中心メンバー（当時の同部部長の知人）に相談、指導を仰いだ。また、同中心メンバーに講師を依頼し、参加予定の全スタッフを対象に講習会を企画した。

## メンバー概要

活動開始時のメンバー詳細について示す。コアメンバーは障害者保健福祉部のメンバーであり7～8人であった。理学療法経験年数は8年～15年であり、国際的活動の経験者も2

名いた。この 2 名は、他競技協会スタッフとして強化選手と国際大会に同行する経験を持っていた。協力メンバーとして、府士会員から一般募集に応募した 20 名程度が参加した。これは先述の府士会ニュースにて募集した会員である。理学療法経験年数 1 年～15 年程度であり、さまざまな経験を持っていた。

現在の活動メンバーはおおむね構成としては変わらない。障害者保健福祉部から公益事業部に名前が変更になっており、府士会の公益事業部部員 12 名を中心に活動が行われている。同様に、毎年府士会ニュースにて募集した府士会員が大会期間中延べ約 40 名程度協力メンバーとして活動を行っている。経験年数は幅があり、1～20 年程度である。サポートメンバーの中には、パラリンピックに帯同しているスタッフもあり、国際的な活動の経験者も含みながらサポートを行っている。

## 活動開始時に必要と感じた情報

本事業は大阪国際車いすテニストーナメントのサポートであり、多くの選手が参加する。そのため、大会運営に当たっては多くの選手のサポートや試合中の対応を必要とする。そのために、協力メンバーを十分集める必要があり、府士会内でこのような活動に興味がある会員に関する情報が必要であった。特に、障がい者スポーツという側面と国際的現場でのサポート側面が合わさった事業であり、英語を話せる理学療法士がどの程度いるのか、海外でのトレーナー経験がある理学療法士がどこに所属しているかなど、このような事業での経験を有するスタッフの情報が必要であった。

また、車いすテニストーナメントサポートにおいて、どのようなことが重要であるのか、どのようなサポート内容が必要なのか等、活動内容についての情報が必要であった。車いすテニス競技の傷害の種類、テーピングスキル、国際選手に対しての特有の準備物、などの情報である。そのため、前述したように、すでにサポートを行っていた他県士会の方に相談・指導を仰いだうえで活動を開始した。

## 活動実績

活動開始時には、海外選手とのコミュニケーションツールの確立を考慮した。具体的には、英語での案内や説明ボードを作成し、簡単なコミュニケーションでも意思疎通が可能な対応を準備した。また、携帯電話の翻訳ソフトを利用し、外国語でのコミュニケーションができる準備をおこなった。海外選手に全員が対応できるわけではないため、サポート体制を組む際に、英語での会話ができるスタッフをそれぞれの日程になるべく配置し、いつ海外選手が来られても対応が可能なように、人員配置を工夫した。大会が ITF 3 のクラスに属していた時期には海外選手も複数参加していたが、現在は ITF Futures に大会が格下げされていることやコロナ禍であることから、海外選手の参加自体が非常に少なくなっているため、海



外選手へのサポート自体はほとんどない（「国際的な活動」に対するエフォートは数%程度である）。海外選手への介入内容としては、筋性疼痛軽減やコンディショニングの希望が多く、ストレッチ・マッサージ・リラクゼーション等が多かった。介入部位、症状、介入内容、いずれも傾向は国内選手と同様であった。

スケジュールとして、大会の約3ヵ月前より、部員内でサポートや事前講習会の準備を開始する。また、大会運営陣との打ち合わせも実施する。大会の約2ヵ月前より、府士会員に一般公募（府士会ニュースや府士会HPに案内を掲載）を行い、協力メンバーを募っている。大会の約1ヵ月前に、参加予定者を対象に事前講習会を開催する。その後、当日4日間のフィジオサポート事業を実施する。大会終了の数ヵ月後に、大会運営陣との振り返りを行う。

#### <実績>

##### 2022年

サポートスタッフ延べ数：27名                      利用者合計：213名      海外選手：0名（0件）

（徒手的ケア144件、アイシング44件、テーピング25件、試合中のメディカルタイムアウト9件）

※コロナ禍のため、感染対策を実施して（体調管理シート、ゴーグル、N95マスク、グローブ装着、消毒対応）、また規模を縮小してサポートを実施

##### 2021年、2020年

大会中止

##### 2019年

サポートスタッフ延べ数：58名                      利用者合計：190名      海外選手：0名（0件）

##### 2018年

サポートスタッフ延べ数：54名                      利用者合計：110名      海外選手：0名（0件）

##### 2017年

サポートスタッフ延べ数：65名                      利用者合計：135名      海外選手：1名（3件）

##### 2016年

サポートスタッフ延べ数：40名                      利用者合計：134名      海外選手：3名（7件）

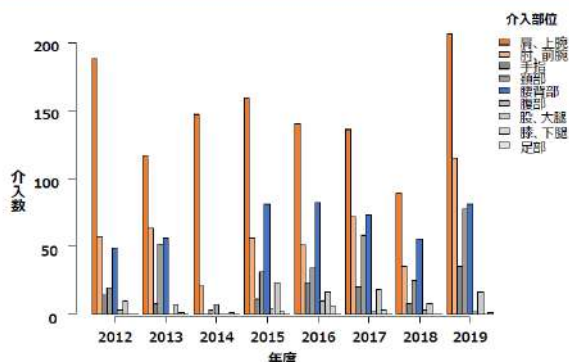
##### 2015年

サポートスタッフ延べ数：40名                      利用者合計：110名      海外選手：1名（3件）

## 基本属性

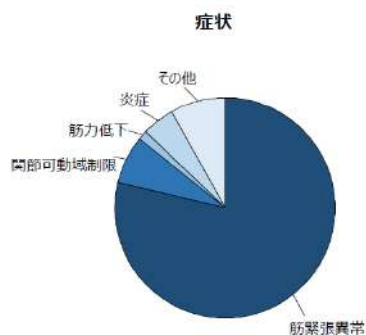
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
介入数	341	301	180	367	362	369	223	535
年齢 (平均±標準偏差)	44.6 ±9.9	44.0 ±11.4	43.0 ±12.0	44.6 ±13.3	40.6 ±13.3	45.6 ±12.0	43.5 ±14.8	38.4 ±14.0
性別 (男性/女性)	245/96	224/80	120/62	240/127	254/107	255/129	175/48	460/75
ラケット把持側 (%)								
右	NA	NA	NA	310 (84.5)	290 (80.8)	293 (79.4)	212 (95.1)	501 (93.6)
左	NA	NA	NA	57 (15.5)	69 (19.2)	76 (20.6)	11 (4.9)	34 (6.4)
介入時期 (%)								
試合前	73 (21.4)	68 (22.6)	57 (31.7)	118 (32.2)	92 (25.4)	122 (31.9)	78 (35.0)	165 (30.8)
試合後	234 (68.6)	177 (58.8)	99 (55.0)	183 (49.9)	214 (59.1)	203 (53.1)	116 (52.0)	348 (65.0)
その他	34 (10.0)	56 (18.6)	24 (13.3)	66 (18.0)	56 (15.5)	29 (14.9)	29 (13.0)	22 (4.1)

## 介入部位と症状



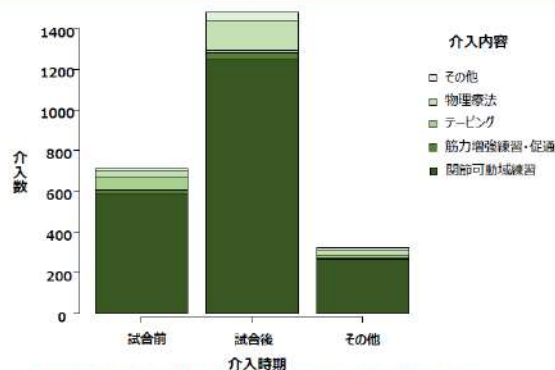
上肢および腰背部を中心とした介入部位が多い

## 介入部位と症状



症状は筋緊張異常、可動域制限が多く

## 介入時期及び介入内容



可動訓練が多く、試合前のコンディショニング利用は少ない  
試合前はテーピング、試合後に物理療法での介入が多い

図2：2012～2019年の選手カルテをもとに算出

## 都道府県土会員のメリット・デメリット

<本活動に参加することによるメリット>

- 国際的なイベントに対して特別な資格を有しなくても参加できること
- この経験から、海外を含めたトレーナー活動に興味をもって活動の場を広げることができること
- 英語での会話（問診等）の経験
- 選手を通じて、海外で行われているフィジオセラピーについて聞くことができる
- 車いすテニス競技に触れる事ができる
- 大会運営について知ることができる

<本活動に参加することによるデメリット>

- 日常業務との兼務であり、時間的制約がある

- 経済的な収入を得ることはできない

## 今後の方向性

コロナ禍で大会がどのように開催されていくかにもよるが、サポートスタッフの拡大やそもそも障がい者スポーツのサポートができる人材の育成が課題である。また、海外選手の参加に応じて、英語が話せる理学療法士や海外でのトレーナー経験を有する理学療法士の確保が必要である。現状、国際的な活動実績がある理学療法士や語学能力の高い理学療法士の情報を把握していないため、どの施設にそのような理学療法士が在籍しているかを調査する必要がある。加えて、現在では事前講習会に海外選手対応の講習は含まれておらず、また語学等の研修もないが、国際活動のサポートを進めていくためには、そのような研修も計画が必要である。最後に、本事業のサポートをきっかけとして海外でも活躍する理学療法士を紹介していくことができれば、より多くの理学療法士に国際的な活動へつなげていく道筋を示すことができる。

## 財源と財政状況

財源は府士会の運営費から捻出している。予算に関しては、本事業単独の予算ではなく、大阪府障がい者スポーツ大会・全国アンパティサッカートーナメント・大阪マラソンサポートと合同での予算を作成し、実行している。また、本事業に係る予算は2種類あり、一つは事前講習会に関する予算、もう一つは大会当日のサポートに関する予算である。国際化に対応するための予算はこの各予算に含まれる。

上記の予算について、例えば2021年度は、事前講習会に関する予算：412,500円、大会当日のサポートに関する予算：489,000円であった。事前講習会に関する予算では、講師料、消耗品費（テーピングや関連商品）が予算の多くを占めた。当日のサポートに関する予算では、賃借料（物理療法機器や簡易ベッドのレンタル等）及び旅費交通費（サポートスタッフの交通費）が予算の多くを占めた。

## 「おわりに」

両事業共に新型コロナウイルス感染症の影響で外国人参加者が減少しているが、今後グローバル化が加速し、多くの外国人が訪日や生活されることが予測される。府士会では、より多くの会員がこれらの国際事業に興味を持ち、この2事業に参加してもらえるように展開していきたい。そのためには、介護技術講習会テキストの外国語バージョンの作成や障がい者スポーツサポートでの外国人選手への対応講習会などを開催していくことも検討していく必要もあると考える。